

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2012年9月27日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 欧米文化選修 4年次

氏名：秋林 宏紀

派遣先大学名：ケニヤッタ大学（ケニア）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2011年9月～2012年7月

渡航年月日：2011年9月3日

帰国年月日：2012年7月31日

● 派遣先大学における授業等の履修状況

	授業名	単位数	授業時間（週）
前期	AEN001 Listening and Pronunciation Skills	2	3時間
	AEN003 Introduction to reading in English	2	3時間
	AEN005 Grammar and Vocabulary	2	3時間
後期	AEN303 Second Language Acquisition	2	3時間

● 研究・学習概要及び今後の勉強計画

Kenyatta 大学では留学生用の英語の授業が用意されており、前期は、まずは日常で英語を使った講義に早く慣れようと思い、リスニング、リーディング、文法と語彙に関する講義をそれぞれ受講しました。講義内容はあまりにも初級すぎて、あまり役には立ちませんでしたが、英語の講義を受けることに慣れることができました。

後期には、第二言語習得に関する講義を受講しました。始めてケニアを訪れた時、彼らは英語が母国語でないにもかかわらず、日常的に英語を話し、ほとんどの人が流暢に英語を話すことができていたことに驚きました。そこで、ケニアの人々は言語習得に長けていると思い、彼らからそれに関する知識を学ぼうと思い、受講しました。講義はほぼ教授が言ったことをノートに板書するだけでしたが、理論は学ぶことができたので、今後その知識を基に、日本でさらに研究し、日本人の言語習得能力に関する卒業論文を書きたいと思います。

● 生活面について

ケニアは東アフリカでもっとも発展しているとはいえ、やはり未だに途上国であり、まず生活そのものに慣れるのに苦労しました。停電が頻繁に起こり、洗濯は手洗いで、シャワ

一は水しか出ず、水不足でそのシャワーすら浴びられない時もありました。最初は戸惑いの連続でしたが、慣れてしまえば楽しいものでした。停電が起こった時は、友達の部屋でろうそくを灯して話をしたり、休日の天気のいい日にのんびりと洗濯をしたりと、原始的な生活ではありましたが、日本にはないスローライフは得難き経験だったと思います。そして、留学生活を楽しくしてくれたのは、なにより「人」でした。ケニア人は非常にフレンドリーでおしゃべり好き、いつもどこかで誰かが私に話しかけてきました。留学生活の初めの頃は、私の英語はお世辞にも上手とは言えないものでしたが、それでも彼らは私の話をじっくり聞いてくれて、分かりやすく話をしてくれました。彼らの人柄のお陰で、気後れすることなく英語を話すことができ、楽しみながら英語力を向上させる事が出来ました。



● 留学全般にわたる感想

一度、短期滞在したことがあるケニアでしたが、約1年という長い期間この国に住んでみると、以前は知らなかった色々な面が見えてきました。時間や約束を全く守らなかったり、モラルに欠けていたり、行政の汚職のせいで学生ビザを取るのに半年以上かかったりと、ケニア人の適当さや怠惰さに時には失望したりもしましたが、それ以上に良い人々との出会いに救われたと思います。色々不便のある途上国で生活するのは想像以上に大変でしたが、いつも楽しそうに、いつも笑って生きているケニアの人々にエネルギーをもらいながら、私自身も留学生活を楽しむことができました。なにより、ケニアで一年間、現地の人々と同水準の生活をしたということが、私を精神的に鍛え、自信を与えてくれました。



良い面も悪い面も含め、ケニアはとても面白い経験ができる国だと思いました。

今まで日本はNGO、NPOでの関わりが主だった日本とアフリカ諸国との関係が、ケニアの発展を目の当たりにし、アフリカの国々これから世界の大きな市場となって行き、いつか日本も今まで以上に深くかかわる必要を迫られる日が来るのではないかと私は思っています。恐縮ではありますが、この報告書が読ん

だ方にとって有益なものであり、日本人にとってまだまだ未開の地であるケニアに興味を持っていただけたらと思います。そして、一人でも多くの学生が自ら足を運び、「ケニアとはどういう国か」を見つけていただけたら幸いに思います。

最後に、私に所費を援助して下さった秋田大学、そして留学生生活を支援して下さった皆さまにお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。